

---

平成22年度

# 国東市学力向上推進計画

---



国東市教育委員会

平成22年2月

## はじめに

昨年4月に実施された平成21年度『全国学力・学習状況調査』は、全国的な義務教育の機会均等と教育水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図ることや各学校が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握・分析し、さらに具体的方策を立て、日常の指導法の工夫改善に生かすことを目的として行なわれました。この『全国学力・学習状況調査』や7年目を迎えた『大分県の基礎・基本定着状況調査』より、本市において「基礎的・基本的内容の定着」「知識や技能等を活用する力」「学習意欲」「生活習慣」等に課題があることが明らかになりました。

また、昨年度から小学校の全学年、中学校の5教科へと枠を広げ実施してきた『国東市標準学力調査』の結果から、特に小学校中学年で躓いている児童が多いことも明らかになりました。

このような中、国東市教育委員会においては、これらの調査結果を多面的に分析し、明らかになった成果や課題に基づいて、学校・家庭・地域社会に役立つ改善方策及び各学校における学力向上対策に向けての方向性を示す「国東市学力向上推進計画」を作成し、全学校に配布するとともに、地域住民の方々へ公表することにしました。

さらに、今後は国や県から学校に提供されている情報及び本市が実施している学習状況調査の結果などを踏まえ、「国東市学力向上推進計画」の活用を図った改善計画である各学校の「学力向上プラン」が作成されるよう協力支援体制を整えるとともに、保護者をはじめ地域住民の方々へ結果及び今後の指導のあり方について公開し、理解と協力を得ていくことが必要です。各学校においては、「国東市学力向上推進計画」の趣旨をご理解いただき、学校・家庭・地域社会が十分な連携をとりながら、自らの教育活動の検証・改善を推進していただくとともに、「学力向上プラン」を作成し、学力向上に積極的に取り組んでいくことが必要であります。

学校教育に携わる全ての方々が、より質の高い教育活動を創造することを通して、本市の児童生徒に知識・技能のみならず、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの「確かな学力」を育成することを期待しています。

平成22年2月

国東市教育委員会  
教育長 吉井 孝光

# 目次

## I 「国東市学力向上推進計画」の概要

## II 「国東市学力向上推進計画」の基本的考え方

1. 「学力向上推進計画」の柱を明確にする
2. 検証改善サイクルを確立する

## III 調査結果から見られる本市の課題

1. 学習面の課題
2. 生活面の課題

## IV 学力向上に向けた具体方策

1. 教育委員会における具体方策
2. 学校における具体方策
  - (1) 学校経営を改善する具体方策
  - (2) 学習指導を改善する具体方策
3. 家庭等への取組における具体方策

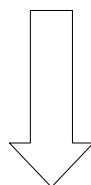


## Ⅱ 「国東市学力向上推進計画」の基本的考え方

### 1. 「学力向上推進計画」の柱

#### ◇ 国東市の喫緊の教育課題

「確かな学力」の向上



#### <基本方針>

「学校」「家庭」「地域社会」及び「行政」が自らの役割と責任を果たしつつ、協働して子どもたちを育成します

#### <重点課題>

「学力向上」のための3つの柱

①基礎・基本を確実に習得します

◆学校力の育成（組織の活性化）

②主体的に学ぶ意欲や態度を身につけます

◆教師力・授業力の育成

③日常生活を充実します

◆家庭との連携

## 2. 検証改善サイクルの確立

### 【「学力向上プラン」の作成（5月中）】

#### 計画（P）

##### 具体方策の実践計画の作成

- ・ 目標の重点化、数値目標の設定
- ・ 実施期間、評価時期、組織等の明確化 など

目ざす児童生徒の姿を具体的に捉えて、分かりやすい数値目標等を設定する必要があります。併せて、目標を実現するための期間、実施状況を把握する評価の時期、回数や方法、具体方策を展開する組織の全体像についても明らかにする必要があります。

### 【1学期・2学期・3学期に実践・改善】

#### 改善（A）

##### 評価を生かした改善方針の作成

- ・ 評価に基づく具体方策の見直し
- ・ 成果及び改善方策等の公表 など

これまでの計画、実践、検証の内容や状況について成果や課題等を取りまとめて公表し、多くの人々の意見等を踏まえ、学校経営・学習指導の改善にいかしていく必要があります。

#### 実践（D）

##### 具体方策の効果を上げる工夫

- ・ 指導体制、多様な指導方法等による実践
- ・ 定期的な協議による成果、課題等の共有

児童生徒の実態に応じて指導法の工夫をすることが大切です。その際、設定した目標の実現状況等について定期的に協議を重ね成果や課題を共有する必要があります。

### 【学期末ごとに自己評価・関係者評価を実施】

#### 検証（C）

##### 定期的、日常的な評価・公表

- ・ 評価情報の収集、整理、分析
- ・ 多面的に変容を捉える評価方法
- ・ 継続的な評価結果の活用
- ・ 学校関係者等による評価
- ・ 保護者、地域住民への結果の公表

評価計画に基づいて定期的、日常的に評価すること、児童生徒の姿を多面的に評価して変容の状況を詳細に分析したり、数値やグラフでわかりやすく示したりする等の工夫を行なう必要があります。また、自己評価結果を学校関係者によって評価するなど、客観的な検証に努める必要があります。

### Ⅲ 調査結果から見られる本市の課題

平成21年度に実施された「全国学力・学習状況調査」「大分県基礎・基本定着状況調査」「国東市標準学力調査」の調査結果から、次のような児童生徒の姿が見られます。この実態を受け、学習面・生活面における課題を明確にし、今後の方策及び目標値を定め取組んでいきます。目標値については、知識等の基礎的な内容を7割、活用等の応用的な内容を6割以上の正答率をめざします。

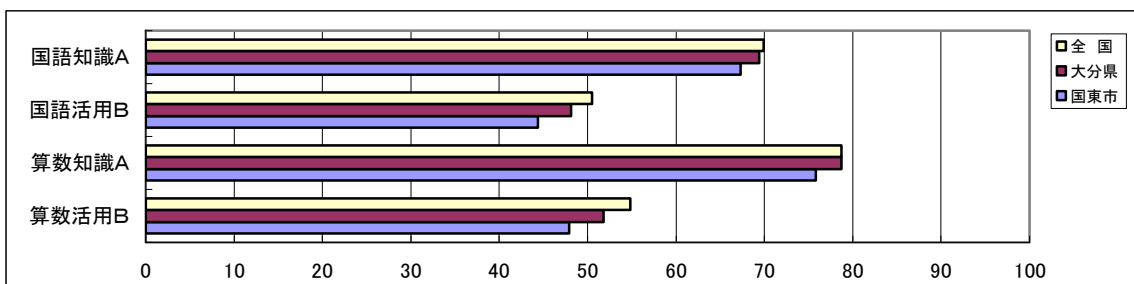
#### 1. 学習面の実態及び課題

(1) 「全国学力・学習状況調査」

小学校6年生・中学校3年生 (H21.4.21実施)

【小学校6年生】

平均正答率	6年国語		6年算数	
	知識A	活用B	知識A	活用B
全国	69.9	50.5	78.7	54.8
大分県	69.4	48.1	78.7	51.8
<b>国東市</b>	<b>67.3</b>	<b>44.4</b>	<b>75.8</b>	<b>47.9</b>



■ 小学校の国語、算数ともに全国及び県平均正答率よりも低く、特に、「活用B」については、全国平均よりも6ポイント以上下回っています。

今後、国語の「知識A」については、文章の中で漢字を書く活動やローマ字の学習、一文を二文の構成に書き換える学習、表現の工夫を読み取る学習、自分の考えを決められた字数で記述する学習などが必要です。

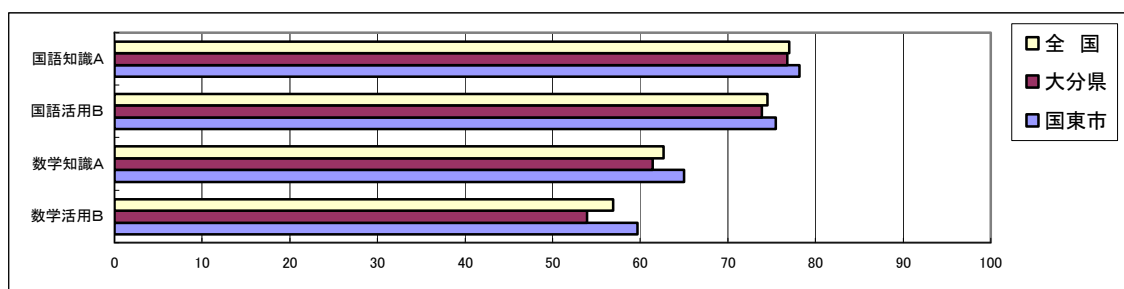
「活用B」では、問題の趣旨に添って必要な事柄を関連づけて整理する学習、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりする学習などが必要です。

算数の「知識A」については、小数の除法計算や四則計算の混合した計算の習熟を図る学習、数の構成や順序の理解を図る学習、角度や面積を求める学習、割合や百分率を求める学習の定着を図ることが必要です。

「活用B」では、資料を基に筋道を立てて考え、条件を整理しながら求める学習や条件を変えた図形で面積が等しいことの原因を考える学習、計算結果の根拠となる考えを説明する学習などが必要です。

【中学校3年生】

平均正答率	3年国語		3年数学	
	知識A	活用B	知識A	活用B
全国	77.0	74.5	62.7	56.9
大分県	76.8	73.9	61.4	53.9
<b>国東市</b>	<b>78.2</b>	<b>75.5</b>	<b>65.0</b>	<b>59.7</b>



■ 中学校の国語・数学において教科全体では「知識A」「活用B」ともに全国及び県平均正答率を上回っていますが、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国平均を下回っています。

今後、国語の「知識A」については、話の内容から必要な情報を的確に聞き取る学習や自分とは異なる立場の意見を取り入れて説得力のある文章を書く学習、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う学習などが必要です。

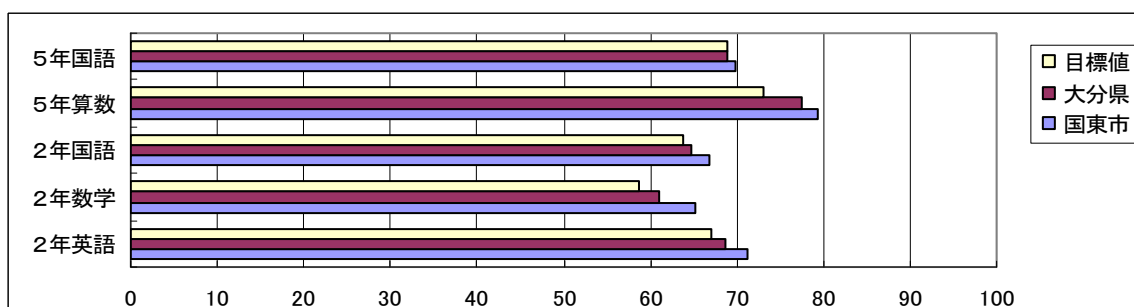
「活用B」については、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる学習や文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書く学習、文書と補助資料との関係を理解し、読み取る学習などが必要です。

数学の「知識A」については、文字式の意味を読み取る学習や分数を含む一元一次方程式を解く学習、扇形の面積を求める学習、図形や角の証明の学習、反比例や一次関数の学習などが必要です。

「活用B」では、事柄が一般的に成り立つ理由を筋道を立てて説明する学習や表から必要な情報を読み取る学習などが必要です。

(2) 「大分県基礎・基本定着状況調査」 小学校5年生・中学校2年生 (H21.4.21実施)

平均正答率	5年国語	5年算数	2年国語	2年数学	2年英語
目標値	69.0	73.1	63.7	58.8	67.1
大分県	69.0	77.5	64.7	61.0	68.6
<b>国東市</b>	<b>69.8</b>	<b>79.3</b>	<b>66.8</b>	<b>65.2</b>	<b>71.2</b>



■ 小学校5年生では、昨年度は国語、算数ともに目標値に到達しているものの大分県平均と比較すると、ともに下回っていますが、本年度は国語、算数ともに目標値・大分県平均を上回っています。特に、算数では「数学的な考え方」「表現・処理」「知識・理解」の全ての領域で大きく伸びています。

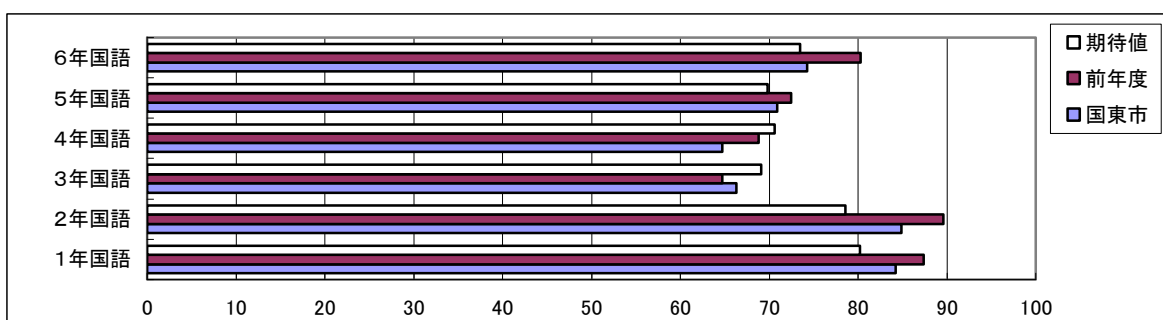
今後、国語については、「内容の聞き取り」「漢字の書き」「文学的文章の読み取り」、算数については、「面積」「角の大きさ」「折り線グラフ」の習熟を図っていく必要があります。



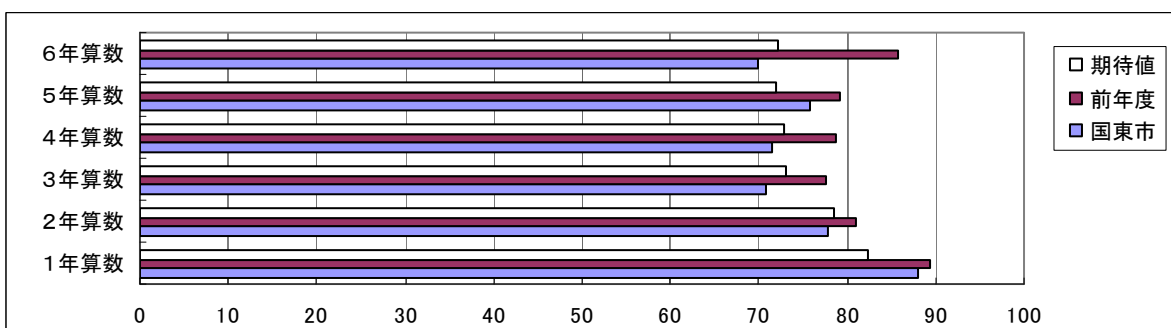
■ 中学校2年生では、昨年度同様に数学・英語については目標値及び大分県平均ともに上回っています。国語については、若干ではあるが、大分県平均を下回っています。小学校同様、「文学的文章の読み取り」等の読解力をつけていくことが必要です。

(3) 「国東市標準学力調査」 小学校全学年・中学校1・2年生 (H22. 1. 19 実施)

平均正答率	1年国語	2年国語	3年国語	4年国語	5年国語	6年国語
期待値	80.2	78.6	69.1	70.6	69.8	73.5
前年度	87.4	89.6	64.7	68.8	72.5	80.3
<b>国東市</b>	<b>84.2</b>	<b>84.9</b>	<b>66.3</b>	<b>64.7</b>	<b>70.9</b>	<b>74.3</b>

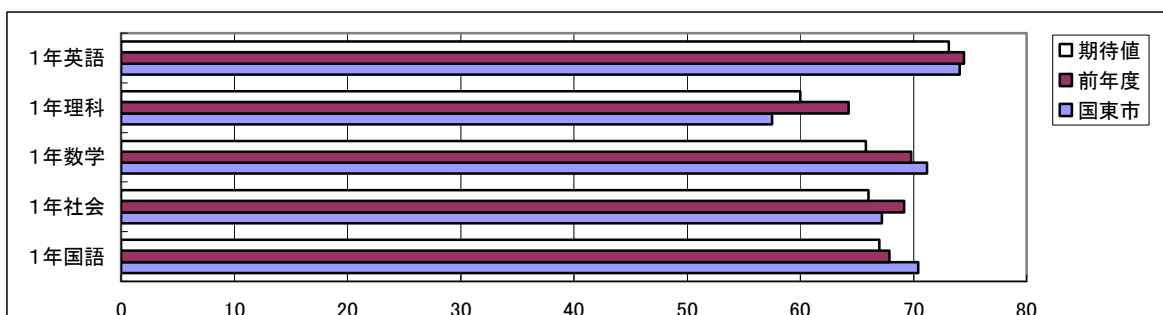


平均正答率	1年算数	2年算数	3年算数	4年算数	5年算数	6年算数
期待値	82.3	78.5	73.0	72.8	72.0	72.2
前年度国東市	89.3	81.0	77.7	78.7	79.2	85.8
<b>国東市</b>	<b>88.0</b>	<b>77.8</b>	<b>70.8</b>	<b>71.6</b>	<b>75.7</b>	<b>70.0</b>



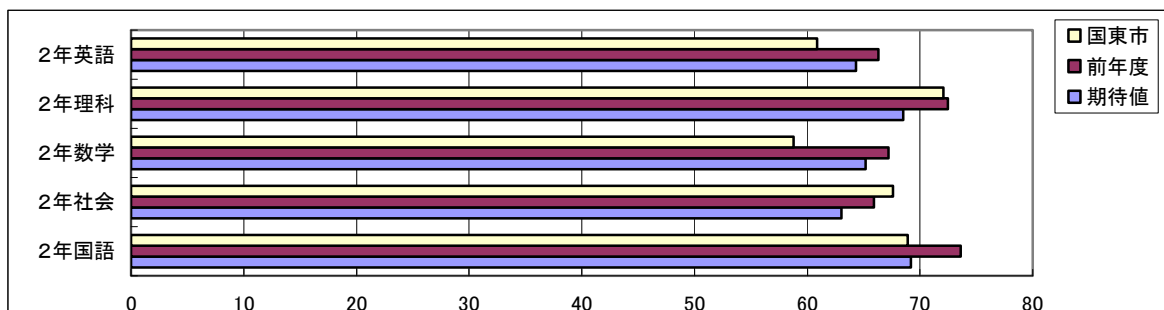
<中学校1年>

平均正答率	1年国語	1年社会	1年数学	1年理科	1年英語
期待値	67.0	66.0	65.8	60.0	73.1
前年度	67.9	69.2	69.8	64.3	74.5
<b>国東市</b>	<b>70.4</b>	<b>67.2</b>	<b>71.2</b>	<b>57.5</b>	<b>74.1</b>



## ＜中学校 2年＞

平均正答率	2年国語	2年社会	2年数学	2年理科	2年英語
期待値	68.0	63.8	61.3	63.6	63.0
前年度	73.6	65.9	67.2	72.5	66.3
国東市	68.9	67.6	58.8	72.1	60.9



■ 小学校では、国語で3年生・4年生、算数で2年生・3年生・4年生・6年生でそれぞれ期待正答率を下回っています。

今後は、新年度までに以下の項目を重点的に指導する必要があります。

### ＜国語＞

3年生－「聞き取り」「物語や説明文の読み取り（全体の要旨）」「漢字の読み書き」「国語辞典の活用」「条件作文」

4年生－「聞き取り」「物語や説明文の読み取り（全体の要旨）」「漢字の読み書き」「指示語の活用（こそあど言葉）」「条件作文」

### ＜算数＞

2年生－「数の構成と相対的な大きさ」「文章の読み取り問題」「時間」「問題づくり」

3年生－「数直線上の数の読み取り」「かさの単位」「道のり」「作図」「問題づくり」

4年生－「位取り記数法の理解と活用」「正三角形の性質」「垂直・平行」「円と球」「文章問題づくり」

6年生－「倍数と公倍数」「分数の除法」「合同な図形」「単位量あたりの大きさ」「文章問題づくり」

中学校では、理科の1年生、数学・英語の2年生で期待正答率を下回っています。

### ＜数学＞

2年生－「1次関数の理解と利用」「合同な図形の証明」

### ＜理科＞

1年生－「葉のつくりとはたらき」「植物の特徴」「光の性質」「力と圧力」「物質の状態変化」

### ＜英語＞

2年生－「リスニング（会話内容）」「慣用表現の活用」「長文の読解」「条件英作文」

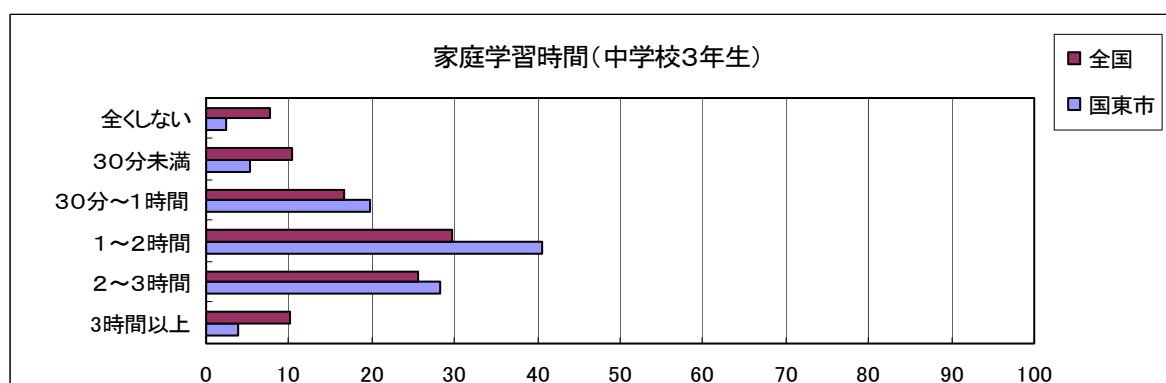
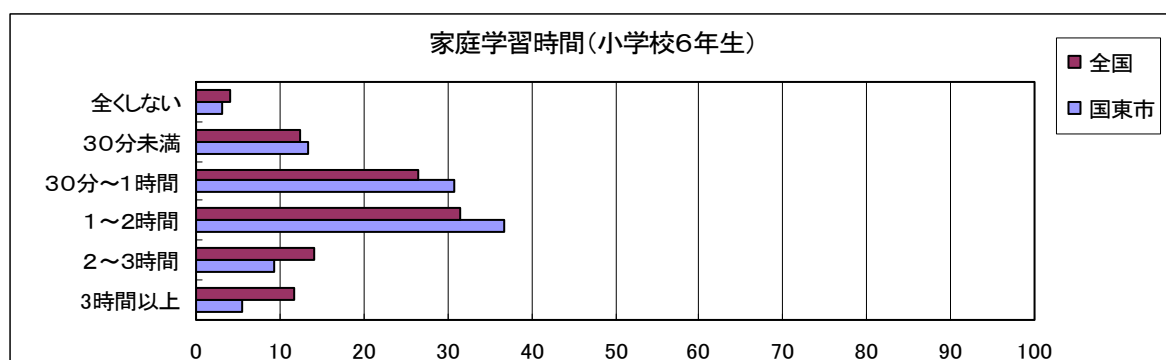
新学年を迎える前に、今一度教科書に立ち返っての補充学習やフォローアップワークシートの活用を行ない、今年度の学習内容を十分定着させ進級させていく取り組みを徹底していくことが必要です。また、調査結果を次年度の自校の教育課程、特に各教科の年間指導計画の作成や「学力向上プラン」に生かし、年間を通じた計画的な取り組み（P－D－C－A）を行なうことが大切です。

## 2. 生活面の実態及び課題

### (1) 家庭学習時間

平成21年度全国学力・学習状況調査より( )は全国

小学校6年生の現状			中学校3年生の現状		
		目標値			目標値
全くしない	3.1% (4.0%)	0%	全くしない	2.5% (7.7%)	0%
30分未満	13.4% (12.3%)	0%	30分未満	5.3% (10.3%)	0%
30分以上1時間未満	30.9% (26.4%)	20.0%	30分以上1時間未満	19.7% (16.6%)	10.0%
1時間以上2時間未満	36.8% (31.5%)	50.0%	1時間以上2時間未満	40.5% (29.6%)	30.0%
2時間以上3時間未満	9.3% (14.1%)	20.0%	2時間以上3時間未満	28.2% (25.5%)	50.0%
3時間以上	5.5% (11.6%)	10.0%	3時間以上4時間未満	3.8% (10.2%)	10.0%



- 小学校では、30分未満の児童が全国に比べると多い傾向にあります。また、全くしない児童もいます。中学校では1時間～2時間の生徒が多く3時間以上の生徒が少ない傾向があります。学ぶ習慣をつけるためにも家庭学習を生活リズムの一つとして位置づけることが必要です。そのためには、保護者の理解・協力が大切です。

#### <指導のポイント>

○小学校 1日平均

低学年 30分 ～ 1時間

中学年 1時間 ～ 1時間半

高学年 1時間半～ 2時

○中学校 1日平均

1年生 2時間 ～ 2時間半

2年生 2時間 ～ 2時間半

3年生 2時間半～ 3時間

- ・学習する時刻、時間、場所の設定
- ・学習に集中できる環境づくり(「ながら勉強」はしない)

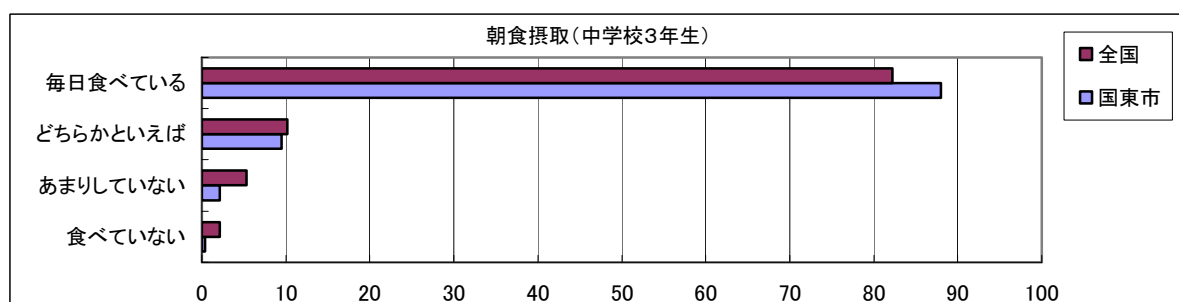
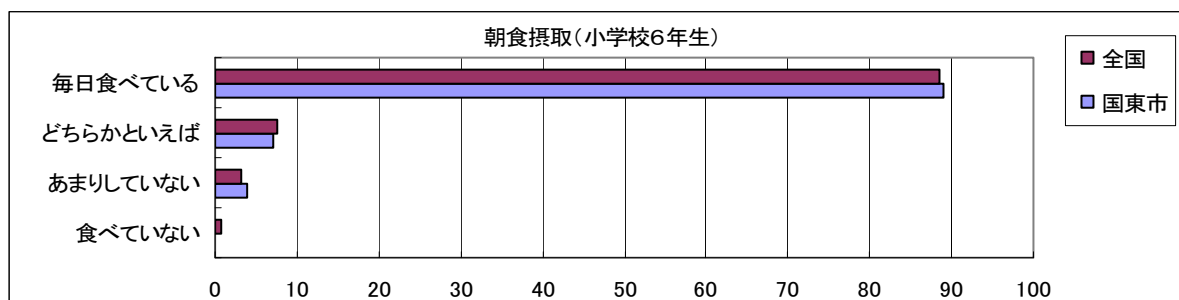
各学年の学習時間は、「めやす」として示しています。「学ぶ」習慣の定着のために根気強くしつけていくよう指導することが大切です。

家庭学習は、その時間の長さだけでなく、内容・仕方によって効果が異なることについても指導することが大切です。各学校は、「家庭学習の手引き」等を作成し、児童生徒自らが学習に取り組むことができるよう学び方を指導していくことが必要です。また、年度当初のPTA等で積極的に保護者に発信していくことも大切です。

## (2) 朝食摂取

平成21年度全国学力・学習状況調査より ( ) は全国

小学校6年生の現状			目標値	中学校3年生の現状			目標値
毎日食べている	89.0%(88.5%)	90.0%		毎日食べている	88.0%(82.2%)	90.0%	
どちらかといえば	7.2%(7.5%)	10.0%		どちらかといえば	9.5%(10.2%)	10.0%	
あまりしていない	3.8%(3.3%)	0%		あまりしていない	2.1%(5.3%)	0%	
食べていない	0.0%(0.7%)	0%		食べていない	0.4%(2.1%)	0%	



- 学習効果を上げるために大切なことの一つとして「朝食をしっかり取る」ことが大切です。文部科学省は、状況調査の結果より、「朝食をとらずに登校した子どもは、朝食を必ずとって登校する子どもより、得点が低い結果が出ており、基本的な生活習慣が身についていると伺える児童生徒は、得点が高い傾向にある。」という分析をしています。また、成長期にある児童生徒の脳の発達のためには、バランスのとれた栄養を摂取することが大切だとも言われています。学ぶための土台として「しっかりと朝食」を家庭の責任で取らせることが大切です。

### <指導のポイント>

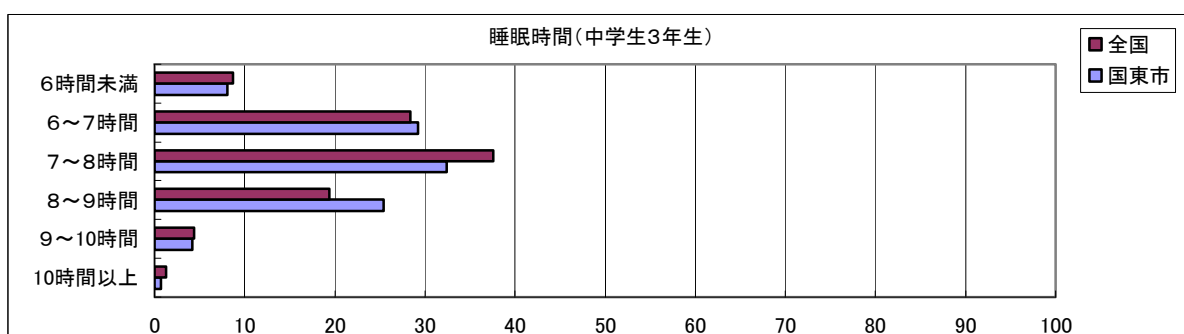
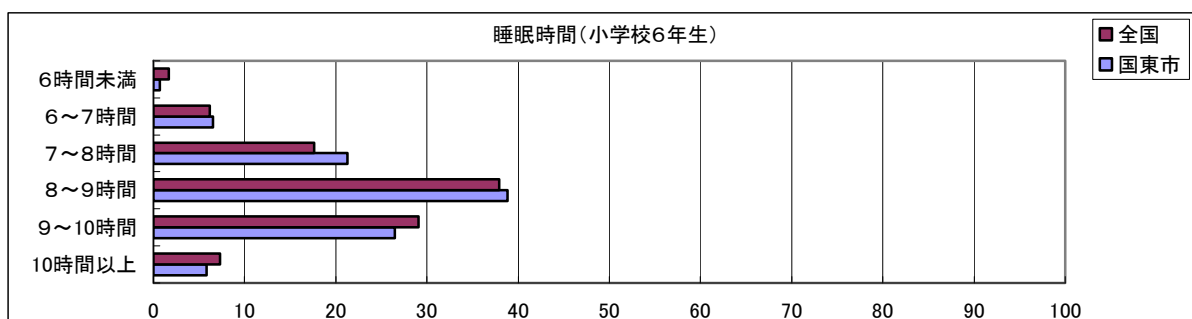
- ・ 朝食を毎日とる習慣（主食とおかずを食べる朝食）
- ・ 朝食をとる時間を考えた起床時刻の設定

学校は、しっかりと朝食をとることの大切さを根気強く指導することが大切です。しかし、家庭によっては、そのことが大きな負担となる場合も考えられます。家庭の状況等に十分配慮し、教育的指導を行なっていくことが必要です。

### (3) 睡眠時間

平成21年度全国学力・学習状況調査より ( ) は全国

小学校6年生の現状			目標値	中学校3年生の現状			目標値
6時間未満	0.9% (1.7%)	0%		6時間未満	8.1% (8.7%)	0%	
6時間以上7時間未満	6.7% (6.2%)	10.0%		6時間以上7時間未満	29.2% (28.4%)	20.0%	
7時間以上8時間未満	21.3% (17.6%)	20.0%		7時間以上8時間未満	32.4% (37.6%)	50.0%	
8時間以上9時間未満	38.8% (37.9%)	50.0%		8時間以上9時間未満	25.4% (19.4%)	30.0%	
9時間以上10時間未満	26.5% (29.1%)	20.0%		9時間以上10時間未満	4.2% (4.5%)	0%	
10時間以上	5.8% (7.3%)	0%		10時間以上	0.7% (1.3%)	0%	



■ 小学校で6時間未満の児童が少数ではあるがいます。学習効果を上げるために大切なことのひとつに睡眠時間があります。就寝時刻が遅いと、起床時刻も遅くなり、朝食をとることができないなどの結果にもつながります。帰宅後の生活リズムを確立し、適切な睡眠時間をとるよう指導していくことが大切です。

#### <指導のポイント>

##### ○睡眠時間・就寝時刻のめやす

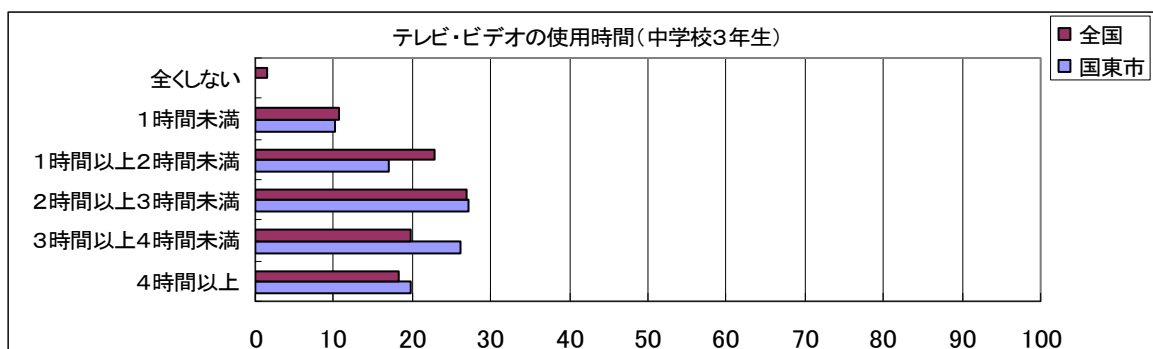
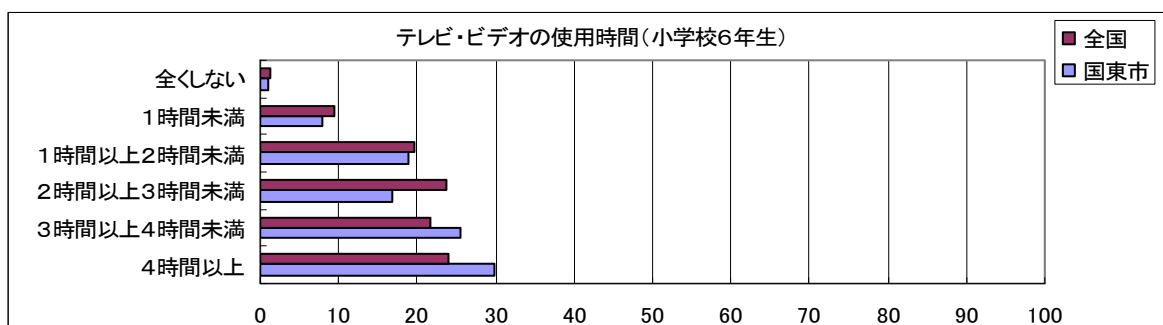
- ・小学生の睡眠時間                      ・小学生の就寝時刻                      ・小学生の起床時刻  
     8時間 ~ 9時間                      午後 9時 ~ 10時                      午前6時 ~ 7時
- ・中学生の睡眠時間                      ・中学生の就寝時刻                      ・中学生の起床時刻  
     6時間 ~ 8時間                      午後10時 ~ 11時                      午前6時 ~ 7時
- ・就寝時刻を考えた帰宅後の生活リズムづくり

睡眠不足は、授業への集中力を減退させ、学力の向上の妨げになるばかりではなく、体内時計が狂い、通常乗り越えられる課題も乗り越えることができなくなるといわれています。また、成長期の子どもたちにとって睡眠は単なる休養ではなく、脳を成長させる大切な時間でもあります。常に、頭と心と体がスッキリした状態でいられるよう、規則正しい生活リズムを維持することの大切さを指導していく必要があります。

#### (4) テレビ・ビデオの使用時間

平成21年度全国学力・学習状況調査より( )は全国

小学校6年生利用時間の現状			中学校3年生の利用時間の現状		
		目標値			目標値
全くしない	1.0%(1.3%)	0%	全くしない	0%(1.4%)	0%
1時間未満	7.9%(9.5%)	20.0%	1時間未満	10.2%(10.7%)	20.0%
1時間以上2時間未満	18.9%(19.6%)	50.0%	1時間以上2時間未満	16.9%(22.9%)	50.0%
2時間以上3時間未満	16.8%(23.8%)	20.0%	2時間以上3時間未満	27.1%(26.9%)	20.0%
3時間以上4時間未満	25.5%(21.7%)	10.0%	3時間以上4時間未満	26.1%(19.7%)	10.0%
4時間以上	29.9%(24.0%)	0%	4時間以上	19.7%(18.3%)	0%



- 小学校段階で3時間以上テレビ・ビデオ等を視聴している児童の割合が高く平成17年度の文部科学省の調査によれば、テレビ・ビデオやゲーム、携帯電話、パソコンを使用する時間が長いほど就寝時刻が遅くなる、他者と交流する割合が少ない、疲れを訴える割合が多い、ということが報告されています。使用する時間を含めてテレビ・ビデオ等の視聴時のルールを決めるよう指導することが大切です。

#### <指導のポイント>

○使用する時間の決定(小・中学生)

- ・1日 1時間 ~ 2時間以内

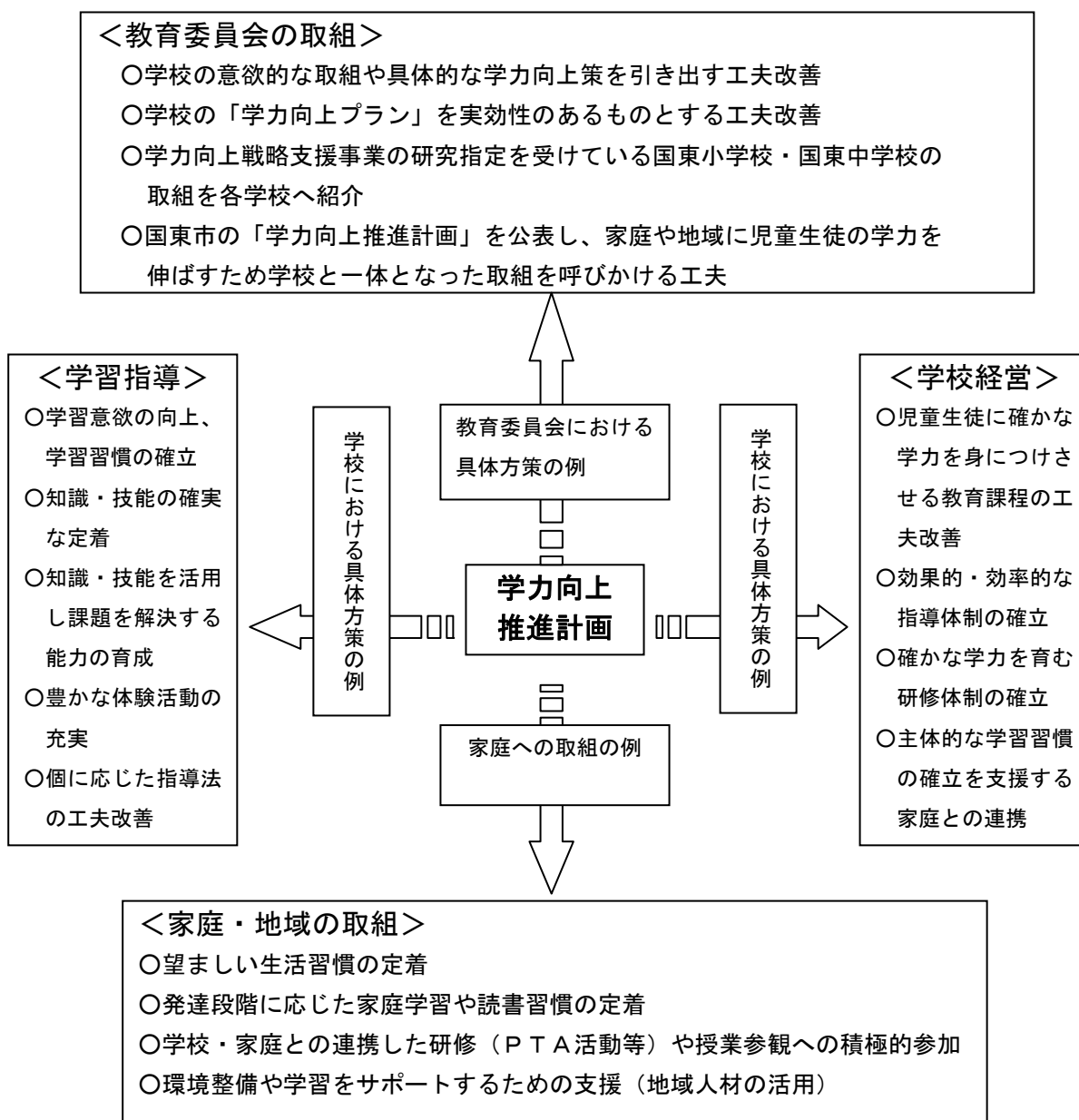
○その他

- ・使用時間帯のルールを決める。
- ・読書に親しむ時間の設定

学校は、定期的に「テレビやゲームにふれない日」を決めること等、家庭での取組を指導していくことが大切です。テレビ・ビデオ、ゲーム、パソコン等を長時間使用することは、学習時間や睡眠時間を不足させることにつながり、生活リズムを崩す大きな要因にもなっています。また、使用する時間だけでなく、望ましい利用の仕方についても指導していくことが必要です。あわせて読書に親しむ時間を増やすことの大切さを指導していくことも必要です。

## IV 学力向上に向けた具体方策

「教育委員会」「学校」「家庭・地域」がそれぞれの役割と責任を果たしつつ、地域総ぐるみで取組む



# 1 教育委員会における具体方策

## 学校の意欲的な取組や具体的な学力向上策を引き出す工夫改善

- ① 秋田県等の取組に学ぶことで教職員の意識改革と授業力の向上を図ります。
- ② 国東市学力向上拠点校として国東小学校・国東中学校を指定します。
  - ◆ 国東小学校では、算数科による教科担任制の導入を行います。  
今年度の体制を継承し、系統的な指導を行うため、中学年部・高学年部の児童を1専科教員が指導していきます。  
専科教員をT1、学級担任をT2として、TT指導を取入れた個に応じた指導の徹底も図っていきます。
  - ◆ 国東中学校では、「家庭・地域」との連携を促進するため学習環境部を組織し、『家庭学習の手引き』を作成するとともに、保護者への啓発を積極的に行っていきます。また、「小学校」との連携を図るため、小中連携会議を年3回実施し、生活態度や学習規律について共通指導項目を決め実践したり、互見授業を実践したりして学力向上を図っていきます。
- ③ 学力向上拠点校では、年度当初に児童生徒・保護者への実態把握のための測定を行い、11月を目途に本年度の取組結果の効果測定を行います。
- ④ 拠点校等の取組を市内の学校や保護者・地域住民へ情報発信していきます。  
(校長会・教頭会・研究主任会・くにさき地区教育研究会、市報への掲載等)
- ⑤ 課題の見られる学校については教育委員会より学校訪問を行い、指導・助言に入ります。
- ⑥ 小・中の連携を進め、中学校ブロック内の学校間で互見授業の実施等小・中のいずれの学校でも参観できる体制をつくります。
- ⑦ 生涯学習課や文化財課と連携し、児童生徒の学習を支援する学習サポーター等の人材や教育施設等の活用を積極的に推進し、学校支援体制づくりを一層進めていきます。
- ⑧ 特別に支援を必要とする児童生徒の学習及び生活支援を行なうために要望する学校に「特別支援教育支援員」を派遣し人的支援を行ないます。



## 2 学校における具体方策

### (1) 学校経営を改善する具体方策

- ① 児童生徒に「確かな学力」を身につけさせる教育課程の工夫・改善
  - ◆ 指導の重点化を図るとともに、学校教育目標実現のため各教科、各学年・学級における具体的方策（それぞれの経営案）を位置づけます。
  - ◆ 授業時数の管理を行い、標準授業時数を確保します。
- ② 効果的・効率的な指導体制の確立
  - ◆ T T 指導や習熟度別指導を含めた少人数指導などの活用を図ると共に学力拠点校である国東小の教科担任制の成果に学び、個に応じた指導方法の効果的な取り組みを実践していきます。
  - ◆ 校長等による授業観察を週一回程度行い、参観後個別に指導を行います。
- ③ 確かな学力をはぐくむ研修体制の確立
  - ◆ 近隣の学校や中学校の校区など、相互の学力向上の取組や各学校の課題解決に向けた取組に学び合う体制を整え、研究体制の拡充を図ります。
- ④ 主体的な学習習慣の確立を支援する家庭との連携の強化
  - ◆ 学校行事や授業参観等の P T A 活動への参加率の向上を目指します。
  - ◆ 『家庭学習のしおり』や『家庭学習の手引き』を作成し、年度当初に丁寧な説明を行います。

### (2) 学習指導を改善する具体方策

- ① 知識・技能の具体的定着
  - ◆ 授業のねらいを児童生徒に意識させ、個人解決・集団解決の場を位置づけ、児童生徒の到達状況を見取る授業を構築します。
- ② 知識・技能を活用し、課題を解決する資質・能力の育成
  - ◆ 実生活における事象との関連を図ったり、身近な素材を用いて学習したりするなど、日常生活との関連を図った学習活動を取入れます。
- ③ 学習意欲の向上、学習習慣の確立
  - ◆ 学習ルールの確立や整理整頓による落ち着いた学習環境づくりに努めます。
- ④ きめ細かな指導等に関する研修の充実
  - ◆ 提案授業や互見授業を実施し、個の力を伸ばす指導のあり方を学び合い、互いに授業力の向上を図ります。

### 3 家庭・地域における具体方策

望ましい生活習慣や学習習慣を確立することが大切

① 望ましい生活習慣の定着

- ◆ 起床時刻や就寝時刻、テレビを見る時間を見直すなど、家族で1日の生活のリズムの改善を図るようにします。特に、就寝時刻については、小学生で午後10時まで、中学生については午後11時までを目安としましょう。
- ◆ 食事の重要性や楽しさ、朝食をとる大切さを理解し、「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭で実践できるようにしましょう。

② 発達段階に応じた家庭学習の促進

- ◆ 「家庭学習の手引き」を活用し、自ら学習に取り組むことができるよう計画した家庭学習の目標や内容にそって進められるよう声かけをしましょう。
  - ① 温かい助言や励ましを与えてやる気を育てましょう。
  - ② 自分で取組もうとしている姿勢を積極的に励ましましょう。
  - ③ やったことをしっかり見届けてほめてあげましょう。

③ 家庭での読書習慣の定着

- ◆ 家庭学習の一環としてできるだけ読み聞かせや親子読書の時間を設け、読書の楽しさやすばらしさを実感させ、習慣化を図りましょう。
- ◆ 公共図書館等を積極的に活用し、本に慣れ親しむ心情を育てましょう。

④ 学校・家庭との連携

- ◆ PTA総会や授業参観、学級懇談会へ積極的に参加し、担任とのコミュニケーションを図りましょう。
- ◆ 「学校だより」や「学年・学級通信」等を通して学校の教育方針や教育情報を家庭教育にいかしましょう。

⑤ 学校支援

- ◆ 学校教育活動を支援するために積極的に学習・環境・安全に対するサポーターとして協力しましょう。

発行 国東市教育委員会 学校教育課

〒873-0503 国東市国東町鶴川 160-2

TEL 0978-73-0066 FAX 0978-73-0067

E-mail gakkou-kyoiku@city.kunisaki.lg.jp